

# ひげの隊長「イラクを語る」の市「後援」に党市会議員団が強く抗議

## 市長がひとりで「後援」決定、マイクロバスも会場看板もビラ印刷まで無料提供

### 2月20日付け各紙にビラ折り込み

新聞折り込みで、ひげの隊長「イラクを語る」というビラが入っていました。

主催は、自衛隊父兄会  
京丹後支部、共催に、隊  
友会京丹後支部、後援に  
京丹後市となっています。



日本共産党京丹後市会議員

### 平林ちえみ議員が事実の確認に

2月21日、平林市議と井上事務局員が市に、事実確認と抗議を行いました。

市長は不在で、助役、総務部長、総務課長が対応をし、その中で市長が独断で後援を決めたこと、折り込まれたビラは市の印刷機で印刷し、会場内看板も市が作成、市のマイクロバスを運行すること、申し込み受付を市役所窓口や各市民局で行っていることなど、至れり尽くせりの約束をしていたことがわかりました。「マイクロバスは、今まで多くの団体からもって使えるようにと要望もしていたことから柔軟な対応にした」と説明しました。

### 厳重に抗議

イラクへの自衛隊派兵には、多くの国民がイラクから撤退を求めているなかで、後援を市長が一方的に決めたことは重大です。

マイクロバスの利用については、広く市民が利用できるようにすることは、当然のことですが、それなら、市民に関われた明確な、「規則」を作り、市民に広く使えるようにするべきではないでしょうか。

日本共産党京丹後市会議員団は、厳しく抗議しました。

市会議員団ニュース

2005年2月23日(水)